

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 6 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370046

研究課題名(和文)江戸期における『易学啓蒙』研究 - 安東省菴『啓蒙難解』を中心に -

研究課題名(英文)The Study on "Yixue qimeng" in the Edo Period :Centering on Ando Seian's "Qimeng nanjie"

研究代表者

伊香賀 隆 (IKOGA, takashi)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・特命研究員

研究者番号：20722995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：『易学啓蒙』に説かれる朱熹の「象数易学」を解明することを目標とし、そのための第一歩として、柳川藩儒・安東省菴(1622～1701)によって編纂された註釈集『啓蒙難解』に着目し、その内容を明らかにした。また、中国・朝鮮・江戸期日本における『易学啓蒙』の註釈書・研究書を蒐集・調査した。さらに、『啓蒙難解』をはじめとする諸註釈を参考にしつつ、朱熹『易学啓蒙』の解読を試みた。研究期間内では、同書「本図書第一」に説かれる朱熹の「河図洛書」説を解読・分析して論文として整理し、報告を行った。

研究成果の概要(英文)：This study aims to elucidate the image-numbers of the Changes (象数易学) that Zhu Zhi (朱熹) described in "Yixue qimeng (易学啓蒙)". As the first step, I focused on "Qimeng nanjie (啓蒙難解)" which was compiled by Confucianist of Yanagawa, Ando Seian (安東省菴, 1622-1701), and clarified contents of this commentary. In addition, I collected commentaries of "Yixue qimeng (易学啓蒙)" of China, Korea and Japan of the Edo period. Furthermore, while referring to those commentaries, I tried to clarify "Yixue qimeng (易学啓蒙)". In the research period, I analyzed the theory of Zhu Zhi (朱熹)'s "Hetu luoshu (河図洛書)" opinion described in "Yixue qimeng (易学啓蒙)", and organized it as a paper.

研究分野：中国哲学 宋明儒学 江戸儒学

キーワード：朱子学 易学啓蒙 象数易学 安東省菴 河図洛書 邵康節

1. 研究開始当初の背景

(1), 朱熹の『易学啓蒙』は、当時の学ぶ者が、易の義理(文義)ばかりを議論して、象数(卦の象形や易の数理)についての研究が軽んじられていたことを憂慮し、学友の蔡元定と共に「象数易学」を研究し、その成果をまとめたものである。朱熹は、この書において易研究の偏りを是正し、聖人が易を作成した「本源精微の意」(『周易本義』)を明らかにしようとしたのである。『易学啓蒙』で取り上げられた河図・洛書・先天図・後天図などの神秘的な図が朱熹の『周易本義』に掲載され、また『易学啓蒙』が永楽三大全の一つ『性理大全』に収録されたこともあって、その存在は広く知れわたることとなる。『易学啓蒙』についての註釈書や研究書は決して多いとはいえないが、南宋から明にかけて、また朝鮮や江戸期の日本においても作成された。しかし清朝に入り黄宗羲・毛奇齡・胡渭などが「根拠のない捏造である」として徹底的に論駁し、またその思想内容が特異かつ難解であることも手伝って、それ以降ほとんど顧みられることはなく、その状況は現代に至っても続いている。しかし、朱熹の易学、ひいては朱熹哲学の全貌を明らかにしようとするならば、やはり、『易学啓蒙』の研究を避けて通ることはできない。現代における『易学啓蒙』研究が俟たれるところである。

(2), 日本の江戸期においては『易学啓蒙』の註釈書や講義録が比較的多く作られたが、柳川藩儒・安東省菴(1622~1701)が編纂した註釈集『啓蒙難解』はその初期のものである。省菴は、『易学啓蒙』の解明を目指したものの、当初はその難解さに苦しんだという。そこで中国・朝鮮から様々な註釈書を集めて検証し、その中から理解し易いものを選び出し、さらに、内容が重複する所は削り、内容が一貫するように並べて一冊の書物として仕上げた。これが現在、柳川古文書館(福岡

県柳川市)に存在する省菴の自筆稿本『啓蒙難解』(安東家蔵書 70)であり、現在、写本が残るのみである。報告者は2012年4月より、柳川古文書館において『安東省菴集』(2014年3月刊行、柳川市史編集委員会)の編集作業に関わることになり、同集に収録される『啓蒙難解』の解題執筆に協力することとなった。調査を進める中で、本書が朱熹の『易学啓蒙』を解読するにあたり、非常に有益であることに気付かされた。そこで先ず本書の内容と成立過程を明らかにすることが、朱熹の『易学啓蒙』研究の進展につながり、また、朱熹以降の中国・朝鮮、さらには日本江戸期における『易学啓蒙』の研究史を明らかにしていくことにもつながると考えるに至った。

2. 研究の目的

『易学啓蒙』は朱熹の強い思いから作成されたものであり、朱熹の易学のみならず、朱熹の「理」意識を考える上でも決して無視することのできない重要な書である。しかし現代においては全くと言っていいほど注目されず、研究の対象となることはほとんどない。そこで本研究では、『易学啓蒙』の全文を解読し、朱熹の象数易学を明らかにすることを目標とする。そして、そのための第一歩として、安東省菴が編纂した註釈集『啓蒙難解』に着目し、その内容を明らかにする。

3. 研究の方法

(1), 先ず、安東省菴の『啓蒙難解』三卷(上中下)を解読し、その構成・出典及び思想を明らかにする。

(2), 『啓蒙難解』を翻刻する。

(3), 中国・朝鮮・江戸期日本における『易学啓蒙』の註釈書・研究書を蒐集・調査して比較検討する。

(4), 『啓蒙難解』および他の註釈書を参考にしつつ朱熹の『易学啓蒙』の解読を進める。

(5), 『朱子文集』『朱子語類』にみられる朱熹の象数易学についての発言も併せて検討する。

4. 研究成果

(1), 『啓蒙難解』上中下の構成・出典および思想を明らかにし、「朱熹『易学啓蒙』研究序説(1)(2)(3)～安東省菴の研究～」(『東洋学研究』第52号、第53号、第54号)として報告した。なお採用されている註釈は、世祖撰・崔恒他編『易学啓蒙補要解』(朝鮮)・李滉撰『啓蒙伝疑』(朝鮮)・楊時喬撰『周易古今文全書』(明)の三書が最も多かった。構成は先ず『易学啓蒙補要解』を掲げ、それを補足するような形で『啓蒙伝疑』『周易古今文全書』等を引用するパターンが多く確認された。

(2), 『啓蒙難解』上中の翻刻をほぼ終えた。ただ、多く掲載されている図表をどのように処理・編集し、また翻刻データをどのようにして発表していくかは現在検討中である。

(3), 中国・朝鮮・江戸期日本における『易学啓蒙』の註釈書・研究書として、以下ものを蒐集・調査した。

【中国】

〔南宋〕胡方平撰『易学啓蒙通釈』 / 〔南宋〕鮑雲龍撰『天原発微』 / 〔南宋〕朱鑑『朱文公易説』 / 〔南宋〕鮑雲龍『天原発微』 / 〔元〕胡一桂『易学啓蒙翼伝』 / 〔元〕胡炳文『周易本義通釈』 / 〔明〕胡広等編『性理大全』 / 〔明〕韓邦奇撰『易学啓蒙意見』 / 〔明〕楊時喬撰『周易古今文全書』

【朝鮮】

崔恒ほか『易学啓蒙補要解』 / 李滉『啓蒙伝疑』

【日本】

林鷲峯『易学啓蒙私考』 / 榊原篁洲『易学啓蒙諺解大成』 / 馬場信武『易学啓蒙図説』 / 若林強斎『易学啓蒙師説』 / 浅見綱斎『綱斎先生易学啓蒙説帯講書』『啓蒙補要解』『綱斎先生易学啓蒙序講義』 / 三宅尚斎『易学啓蒙筆記』 / 金子霜山『易学啓蒙纂畧』 / 佐藤一斎『易学啓蒙図考』『易学啓蒙欄外書』

中国・朝鮮の註釈書の主なものについては、「朱熹『易学啓蒙』研究序説(1)～安東省菴の研究～」(『東洋学研究』第52号)において報告を行った。日本のものに関しては蒐集もしくはデジカメ撮影はしたものの、内容を研討・比較するまでには至らなかった。これについては今後の課題としたい。

(4), 『啓蒙難解』および中国・朝鮮の註釈書を参考にしつつ『易学啓蒙』『本図書第一』を解読・分析し、「朱熹の「河図洛書」解釈 - 『易学啓蒙』本図書第一の分析 - 」(『白山中国学』通巻23号)として発表した。

(5), 朱熹易学の全体像を確認するため、『朱子文集』『朱子語類』『周易本義』を検討した。具体的には、朱熹が袁機仲に与えた十一の書簡(『朱子文集』巻第三十八所収)朱熹の易説(『朱子語類』巻第六十五「易一」・六十六「易二」・六十七「易三」)等。これらの資料を通して、朱熹が『易学啓蒙』を作成した意図、そして象数易学に対する朱熹の「理」意識が浮かび上がってきた。以上の成果を整理して、第65回九州中国学会(2017.5.14)において「朱熹の『易学啓蒙』について」として報告を行った。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

伊香賀隆、朱熹の「河図洛書」解釈 - 『易学啓蒙』本図書第一の分析 - 、白山中国学、査読有、通巻 23 号、2017、1 - 24

伊香賀隆、朱熹『易学啓蒙』研究序説(3) ~ 安東省菴の研究 ~、東洋学研究、査読有、第 54 号、2017、117 - 132

伊香賀隆、朱熹『易学啓蒙』研究序説(2) ~ 安東省菴の研究 ~、東洋学研究、査読有、第 53 号、2016、81 - 97

伊香賀隆、朱熹『易学啓蒙』研究序説(1) ~ 安東省菴の研究 ~、東洋学研究、査読有、第 52 号、2015、155 - 169

[学会発表](計1件)

伊香賀隆、江戸期における『易学啓蒙』研究 ~ 安東省菴の場合 ~、東洋学研究所研究発表例会、2014.7.5、東洋大学(東京都文京区)

[参考] 研究期間終了後

伊香賀隆、朱熹の『易学啓蒙』について、第 65 回九州中国学会、2017.5.14、佐賀大学(佐賀県佐賀市)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

伊香賀 隆 (IKOGA, Takashi)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・
特命研究員

研究者番号 : 20722995